

★*...-----*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2014.10.19 vol.38

★*...-----*★

☆ご あ い さ つ☆

秋の深まりを感じる今日この頃、
皆様、お変わりございませんか？

さて、だいぶ夕暮れの時刻が早まって、
気付くともう空は真っ暗。
空を見上げると一番星が輝いていて、
ふと、一年前のある出来事を思い出しました。

それは、本日からご紹介させていただく、
素敵なスターリマンさんとの出会いです。

「今を生きるスターリマンの物語」第13話は、
IVFなんばクリニック理事長/IVF JAPAN CEO
森本義晴氏をご紹介します。

一年前、皆様はどんな出会いがありましたか？
是非、一年前の出来事を思い返していただきながら、
最後までお楽しみいただくと嬉しいです。

☆第13話「今を生きるスターリマンの物語」

世界中の不妊で悩む女性たちに希望と幸せを届けている
IVFなんばクリニック 理事長/IVF JAPAN CEO 森本義晴氏

第1章 ～森本義晴氏との出会い～

私が、不妊治療の世界的名医である森本義晴先生と
初めてお会いしたのは、2013年11月19日。

きっかけは、著書「いつも君のそばにいるよ」の出版で
大変お世話になった学研パブリッシングの遠藤励起氏から、
森本先生の本の出版に携わってみたいか、とお誘いいただいた事でした。

森本先生と遠藤氏は、20年以上来の長いお付き合いで、遠藤氏が「ごま書房」という出版社でお仕事をされていた頃に著者と編集者という立場を超えた信頼関係の上、胎教や妊娠力を高めるためのご本を数多く出版してられました。

その後、2007年に遠藤氏が学研パブリッシングの編集長になってからは、ずっと森本先生のご本を出版する機会がなかったそうですが、いつかまた森本先生と一緒に本を出版したいと思い続けていたそうです。

森本先生も、30年以上に渡る不妊治療についてまとめたご本は、遠藤氏と一緒に作りたいという事ですぐにお話がまとまり、遂に昨年2013年、出版に向けた企画が動き出したのです。

遠藤氏から森本先生のご本の出版のお話をお聞きした時、日本のカップルの6組に1組は不妊治療をしているという現状を知り、私は驚愕しました。

未来を担う子ども達がどんどん少なくなってしまうなら、この日本は一体どうなってしまうのだろう。そして、赤ちゃんが生まれないのはなぜなのか？原因を知りたいと思いました。

そんな重要な問題と向き合い続けている森本先生は、最先端医療を駆使するだけでなく、不妊治療のためによいとされる様々な分野を取り入れ、統合医療を目指すことで確実な結果をあげ、多くの女性たちに希望を与えてきました。

現実に絶望し、大きな不安やストレスを抱えながらも懸命に不妊治療を受けている女性にとって、まさに森本先生はスターリィマンそのものだと私は感じました。

遠藤氏に、森本先生の本のライターのお話をいただいた時、私にそんな大事な役目が務まるかと、一瞬戸惑いましたが、是非、森本先生にお会いしてみたい！お手伝いさせていただきたい！という気持ちの方がどんどん大きくなっていきました。

それから一ヶ月程した11月19日。遠藤氏とご一緒に、森本先生が理事長を務めている大阪の「IVFなんばクリニック」を訪れました。
<http://www.ivfnamba.com/>

高級ホテルのような、素敵なクリニックの受付で、
森本先生の秘書の方にお迎えいただき、
私はときどきしながら、応接室で待っていました。

少しするとドアが開いて、森本先生が満面の笑顔で入ってこられ、
その瞬間、森本先生の温かくやさしいお人柄が伝わってきました。

遠藤氏から森本先生をご紹介をいただき、
ご挨拶をして握手するまでのたった数秒間で、
森本先生と遠藤氏と私と三人の想いが共鳴したように感じました。

先生のお人柄や想いに強く共感し感動した私は、
素晴らしい先生にお目にかかれた喜びでいっぱいになり、
森本先生の出版のライターをさせていただく事を決めました。

いよいよ出版に向けて、2014年1月10日に、
森本先生に第1回目のインタビューを行いました。

もしかすると、本づくりには直接関係ないことかも知れませんが、
今を生きるスターリマンのインタビューの時のように、
森本先生の家族の原風景なども含めて質問させていただきました。

なぜなら、スターリマンのような生き方をしている方は、
どのような家庭環境で生まれ育ち、これまでどんな経験をなさってきたのかが、
今なさっているお仕事と非常に深く関わっているからです。

ご本を書かせていただく前に、不妊治療の世界的名医という
現在の森本先生に至るまでの人生を是非教えていただきたい。
そう願い臨んだインタビューは、森本先生のユーモア溢れるお話で
あっという間に3時間が経っていました。

今まで長いお付き合いをされていた遠藤氏も知らなかったことが
インタビューの中でたくさんお聞きする事が出来て、
遠藤氏からもとても良かったと言っていたら、ホッとしました。

続いて第2回目のインタビューは、一ヶ月後の2月21日。
やはり3時間ほどインタビューをさせていただきました。

先生のお話をお聞きすればお聞きする程、
生命の誕生は神秘的で、医学や科学では説明出来ないような
大いなる力が働いている事を強く感じました。

そして、最後の第3回目のインタビューは、3月10日。
IVFなんばクリニックで森本先生の不妊治療を支えている
スタッフの皆様にもインタビューもさせていただきました。

その中で、もちろん森本先生の腕や考え方も素晴らしいですが、
各分野のプロフェッショナルな人々の力や様々な技術により、
驚異的な妊娠成功率を上げていらっしゃる事を実感しました。

不妊で悩んでいる方が、念願の赤ちゃんを授かるためには、
森本先生のクリニックで診察を受けていただく事が一番理想です。
しかし、残念ながらすべての方がそう出来る訳ではありません。

そこで、まるで森本先生の診察を受けたように、
誰でもすぐに実践出来る分かりやすい本を作る事が出来れば…

ようやく本の方向性が見えると、次々にアイデアが生まれ、
原稿の締め切りの7月下旬ギリギリまで何度も何度も書き直しました。

そして、出来上がった本が、
『Dr.森本の「卵子力」をアップさせるライフスタイルBOOK』です。
<http://hon.gakken.jp/book/2380022400>

この本では、森本先生独自の治療法の中でも
私たちの細胞の中に存在する「ミトコンドリア」に着目し、
卵子のミトコンドリアを活性化させるための極意と
「生活習慣」「運動」「食事」の3つのライフスタイルについて、
具体的な実践方法を分かりやすくご紹介しています。

本の表紙と中の挿絵を、主人のはせがわに描いてもらい、
若い女性の立場から読んだ感想や意見を、娘の祐希に聞いたり、
掲載用の写真を撮るなどのお手伝いをしてもらいました。

是非、今すぐ子どもを授かりたいと願う女性の皆さんだけでなく、
若い女性や男性の皆さんにも正しい知識を知っていただけたら
とても嬉しく思っています。

森本先生との出会い。それは私にとって、
この宇宙が生まれた時から数え切れない命をつないできた
「母親」という存在の尊さ、偉大さを
教えていただくきっかけとなりました。

妊娠・出産を望む女性たちが、無事に赤ちゃんを授かり、
安心して育てていける環境を、私たち一人一人の力で築いていく事は、
この地球の未来を守る大事な一歩となる事でしょう。

かけがえのない生命の営みが永遠に続く事で、
世界中が家族のような温かい愛で包まれ、
みんなが幸せになれる社会のきずながつながりましますように…
今後の森本先生の更なるご活躍を心から願っています。

「今を生きるスターリィマンの物語」
☆第13話の第2章は、10月29日(水)配信予定です！

森本義晴先生との出会いは、いかがだったでしょうか？

私は、森本先生と出会って、
たくさんのことを学ばせて頂きました。

その中の一つとして、
今日はふと先生の口癖である
「あきらめたらあかん」が心に響いてきました。

「あきらめたらあかん」
まさに、今の私の心境ですね。

毎日どんな思いで生きているかで、
人生は大きく変わっていく。
自分が今出会うべき方とご縁をいただいて、
つながるべき人とはずっとつながっていける。

そう信じて、これからも生きていきたいと思います。

さて、ここで素敵なプレゼントのお知らせです！

学研パブリッシングの遠藤励起氏より、
メールマガジンをご覧にいただいている皆様に
『Dr.森本の「卵子力」をアップさせるライフスタイルBOOK』を
プレゼントしてくださいと、3冊いただきました☆

森本先生の本のプレゼントをご希望の方は、
①お名前 ②お届け先ご住所 ③お電話番号 をご明記の上、
yoshimi@dream-hasegawa.com までお送りください。
(このメルマガに直接ご返信いただければ構いません)

第13話の最終章である、11月9日までお申込みを受付いたします。
皆様、ふるってご応募いただけると嬉しいです。

それでは、今回は「今を生きるスターリィマンの物語」の
第13話の第2章をお送りさせていただきます。

配信は、10月29日(水)です。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後 記☆

10月も下旬を迎え、今年もあと2カ月余りになって来ました。
今朝は、地元大宮の氷川神社様に参拝に行ってまいりました。

本殿で手を合わせようとしたとき、
ちょうど神主さんが毎朝の日課であります、
神様への祝詞奏上が始まりました。

「よく来たね」と神様が迎えてくださっている
そんな有り難いお導きを感じて、
感謝と感動で胸がいっぱいになってしまいました。

さて、前回の配信で「スターリィマンカレンダー2015」の
先行予約開始のご案内をさせていただきましたが、
早速、何名かの方がお申し込みしてくださいました！

まだはっきりと絵柄や詳細も決まっていなかった中、
本当にどうもありがとうございます！

おかげ様で、絵もストーリーも描き終え、
今、印刷会社さんから完成品が届くのを心待ちにしている所です。

2015年のカレンダーのタイトルは、
「9つの風船でつなぐ動物たち親子のきずな」です。
祐希がとっても可愛くデザインしてくれました☆
<http://www.dream-hasegawa.com/about/calender2015.pdf>

10月31日までお得な先行予約を受付中です。
カレンダーへの名入れも承っていますので、
是非、お申し込みいただけると嬉しいです。

それでは、段々と朝晩冷え込むようになりましたので、
どうか暖かくしてお過ごしくださいね。

はせがわ芳見

発信元：はせがわ芳見
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2
TEL/FAX：048-671-7708
HP：<http://www.dream-hasegawa.com>
blog：<http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

★*...-----*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2014.10.29 vol.39

★*...-----*★

☆ご あ い さ つ☆

朝夕ずいぶん肌寒くなってきましたが、
皆様、お変わりございませんか？

この季節になると、我が家の食卓には
実家の新米に合わせた定番メニューが並びます。

今日は、さんまの塩焼き&大根おろし、
厚焼き玉子、お芋の煮つけ、ほうれん草の胡麻和え、
具だくさんの豚汁、母から受け継いだ味つけは
今では私の誇れる手料理になっています。

こんな風に母から娘、母から子へ受け継がる
もっとも尊いことに「命」の誕生があります。

私たちの命はすべて、お母さんから生まれて、
お母さんがつないでくれました。

その母から誕生する命を30年以上支え続けている
Dr.森本義晴氏の「今を生きるスターリマンの物語」
第2話 家族の原風景をお送りさせていただきます。
最後までお読みいただけましたら、嬉しいです。

☆第13話「今を生きるスターリマンの物語」

世界中の不妊で悩む女性たちに希望と幸せを届けている

IVFなんばクリニック理事長/IVF JAPAN CHO Dr.森本義晴氏

第2章 ～Dr.森本義晴氏の家族の原風景～

Q1. ご家族のことを教えてください。

私は、父の森本武晴と母の弘子の長男として、大分県別府で生まれました。

父は大正13年11月17日生まれ、母は昭和5年5月17日生まれで、ちょうど半年生まれが違う両親は、まったく性格や運勢が正反対でした。

私は妹と二人兄妹で、妹は埼玉県川越市に住んでいます。

私の家族は、妻と3人の子供がいます。

長男は結婚して子供が1人。

次男も結婚して子供が2人おります。

2人とも産婦人科医として兵庫医科大学病院に勤務しています。

末の娘はロサンゼルス在住で、2児の子育て中をしながらメイクアップアーティストの仕事をしています。

Q2. お父様のことを教えてください。

私の父は産婦人科医でした。お祖父さんが関東軍の軍人だったので、子ども達を戦争に行かせたくない、父を医者にしたそうです。

父は満州医科大学で学んでいた時に、戦争に敗れて命からがら帰って来て、その後、京都大学医学部入りました。

その時、お祖父さんは職がなかったので、父は昼ごはんが食べられないくらい、貧乏をしたそうです。

満州医科大学時代は、先輩が後輩にご飯を食べさせる慣例があったそうですが、後輩に食べさせるために父は医学書を買っていたそうです。

また、父は凝り性で、追求するのが好きでね。バイオリンを独学で始めて、暑い京都でふんどし一丁で、12時間もバイオリンをしていたような人だったそうです。スポーツマンでもあり、ラグビーとか器械体操をしていて、特に大車輪が得意だったようです。

それから、最初に四国の病院に赴任した時、
診療の合間に野菜を作っていました、
それがきれいな野菜で美味しかったので、
近くの農家の人が習いに来ていたそうです。

愛媛のミカン畑で、野菜作りや独学のバイオリンを弾いていたような人でした。

父が医学部を卒業した時代は、産婦人科がものすごく人気で、
医者半数は産婦人科を選んだ時代で、父も産婦人科医を選んだようです。

私が父をととても尊敬しているひとつに、手術がとっても上手な人でした。
一度だけ父と手術をしたことがあるんですが、
白い長い指で流れるように手術する技に、感動しました。

あと、不正をまったくしない開業医でしたね。
誠実で患者さんと心から向き合っていて、すごく人気があって、
森本産婦人科を開業した時は、駅まで患者さんの列ができたようです。
今でもその頃の婦長さんや看護婦さんが、父を慕ってくれているのを聞くと、
人間としても本当にすごい人だったなあと思いますね。

今から30年前、東大阪の地域医療のさきがけとして、
東大阪市議会の要請で、350床で600人の職員が働く規模の
河内総合病院を設立したんですね。

その時、京都大学出身だった父は、その地域の医療を総括している
大阪大学医学部に援助を求めたのです。

普通なら派閥が違うので協力をいただくのはとても難しいのですが、
父の人柄というか、人助けをしたいという父の想いを聴いてくださった、
大阪大学の有名な教授の先生方が、全面的に病院を応援して支えてくれました。

病院は婦人科のガン患者さんのホスピス運営もして、
その頃では珍しい心の医療の心理室があって、心理士が3~4人もいました。

私も時々そこへ行って、こんな世界もあるんだなあと思いました。
妹はアメリカの大学で心理学を学んだのですが、
父の影響なのかもしれませんね。

週1回~月1回は、心理系や脳外科の教授たちと
父は講演会なども意欲的にしていましたね。
大学院を出た私も、産婦人科医として勤務をしていて、
経営も手伝っていました。

父は真面目な人で、亡くなる直前まで患者さんが一番大切だったので、新幹線に乗って遠出の旅行にも行ったことがなかったですね。ただただ医者として、毎日務めた人でした。

唯一、父の楽しみと言ったら、めちゃくちゃ歌が大好きで、カラオケ大会を病院内でやっていました。カラオケのレパートリーは3000曲もあって、最初に自分が見本で歌ったあと、審査委員長をしましてね。

そんな父が、私がちょうど父の病院を手伝っていた48歳の時、直腸がんが見つかりまして、発見して1年も経たない内に亡くなりました。

ずっと父が歌っていたカラオケをCD2枚にまとめて、亡くなる前に「出来たよ」と渡したら、身体を起こして一生懸命に聴いていましたね。

父の葬儀の時に、CDに入っていた「贈る言葉」を流したんです。看護婦さんたちも父の歌が好きで、今もそのCDをみんなが持っていてくれています。

Q3. お母様のことを教えてください。

母はものすごく厳しい人でした。母の父親（祖父）は、大分県で第二十三国立銀行と大分銀行を合併して、大分合同銀行を創った人で、母は事業力の強い人でした。病院を創るのが好きで、河内総合病院は母が創ったようなものです。

とにかく気性の激しい人で、大学の教授でも怒鳴りあげるんです。後で僕が謝りに行くと、「君のお母さんにはかなわないよ」と、みんな言っていましたね。

ある時、病院にお金目当てにやくざが来たんですが、母一人で追い返しました。病院が大好きで、四六始終病院に連絡をとって、「大丈夫か」と。母は医者でもないのにね。

また、子どもだった頃、家のそうじをしないで寝ていたら、元旦にバーンとドアを開けて入って来て、戸棚の本を全部落として、掃除をしると怒られたこともあります。

ある時、慶応出身の有名な教授が来られた時、
母とその教授が意気投合したんですが、
母は同志社女子出身で新島譲先生が大好きで、
同志社の方が一番だと言い張って困ったこともありました。

小さい時から女性はアイティンディが大切だ、
女性も自立してやるべきだと言う人でした。

母は宇和島の出身でもあり、真言宗でしたから、弘法大師おたくで、
私は小さい時からお経を覚えさせて、えらい目にあいました。

家には不動明王像があって、靈感がある真言宗の尼さんが、
ここは白龍さんがいるとか言う方で、その方の予言が良く当たるんです。
私の大学受験の時に、合否はどうでしょうかとお聞きすると、受かるというんですよ。

心配なのでもう一回聞きに行くと、受かるものは受かると断言されるんです。
その方が自分は何年にお役目が終わるから自らが死ぬと仰ってっていたんですが、
本当にその年に亡くなったんです。
世の中には不思議な人がいっぱいいますね。

Q4. どんなお子さんでしたか？

ものすごくやんちゃでしたね。
小さい頃、父の知り合いで鳥取の眼科医の先生の所に遊びに行ったんですけど、
そこで、ガキ大将で全員集めて、八木の巣を突いて、自分だけ逃げるとか、
野犬を捕まえて、首まで埋めて鍋で頭を叩いたとか。

その町の人たちは、あの子は来年から呼ばないでくれって言われた、
そんな子どもでした。

また、父が赴任していた愛媛県伊予県立病院の時は、
院長先生が大切に育てたお花を全部抜いたりしてたとか、
とにかくいたずら好きだったと聞かされました。

Q5. 夢を持ったのはいつ頃でしたか？

父が医者でしたから、小さい時から医者になると思っていました。
夢は海外に行くことでしたね。

また、学生時代、一時は何十人と言う人と文通していました。
月に10通ぐらいやり取りしていましたね。

海外に憧れて、大学に入ってすぐに交換留学で海外に行きました。
1年生の時は、交換留学生としてアメリカのバーモント州の
セントマイケルズカレッジという小さな大学で寮に入って勉強しました。

フレンチカナディアン、フランス系のカナダ人の女学生がいっぱい来ていて、
こんなきれいな人この世にいるかと思いましたね。

東海岸から西海岸を横断したんです。
3日ずつゲストファミリーの所に泊まりながら、
いろんなファミリーがいました。
例えば裕福なお医者さん、弁護士さん、離婚した黒人さんなど、
色んな家庭を見て、米国の奥の方までわかりましたね。
裕福な人や貧乏な人、黒人もいれば、白人もいる。
それはすごく良い経験でした。

その時に英語が上手になりました。
ずっとしゃべり通しだったから。

2年生の時はヨーロッパに行きました。
ユースホテルに泊まりながら、
パリ～アムステルダム～ドイツ～スペイン～イタリアと、
ヨーロッパの北から南まで廻り、色々な人との関わりを経験して、
学生のこの時でしか出来ない経験をたくさんしましたね。

Q6. 産婦人科医からなぜ不妊治療医になったのですか？

私は絶対こうしたいとかこの夢を叶えたいとかで
やってきた人ではないんです。
私の人生って恵まれていて、全部偶然なんです。
気がついたらそうなっていた、ということが多いですね。

私が産婦人科医を選んだのは、父親が楽しそうに
産婦人科医をしている背中を見て、
私も当たり前のように産婦人科医になりました。

医学部を出て、最初は産婦人科医として、妊娠から出産まで、
赤ちゃんが生まれる過程を診ていました。

また病院では、産科だけではなく、婦人科もあり、ガンの治療もしていました。毎日、ガンの患者さんのおばあちゃんたちを診察していると、「天国に行って来たよ」と臨死体験のようなことを話すんです。

私は生命の誕生と死を同時に見ていたんですね。妊娠して出産の過程を通して、お腹の中の体験がその人の一生を左右すると言う、トランスパーソナル心理学の学説を学び、「胎教」と巡りあったんです。

そして、胎児ってなんだろうと思うようになりました。胎児は一つの受精卵の細胞からできているわけで、それが60兆の細胞になって、赤ちゃんになっていくんです。

同時に心も大きくなっていき、ではどこから胎児なのか、この研究から、おなかの赤ちゃんの脳細胞（神経細胞）のほとんどは、胎内での発育「胎教」がとても大切であるということに着目して、大阪胎教センターを創設して胎教教室を始め、日本初の心理学を応用した胎教プログラムを延べ一万人に実施しました。

また、おなかの赤ちゃんの脳細胞の発達に、もっとも効果的な方法として、お腹の赤ちゃんの脳を刺激し、細胞や回路を飛躍的に増加させ、赤ちゃんの頭と心を育てる「胎談」を提唱し、推奨していきました。

赤ちゃんが胎内にいる時から、母親とのコミュニケーションを取る。母親ばかりでなく、父親も兄弟も家族も愛情のコミュニケーションによって、赤ちゃんの脳と心は驚くほど、発達していき、性格と頭の良い子になっていくことを実証していきました。

ちょうど私が大学院生だった1978年に、英国で初めて体外受精が成功したんです。その時、なに突拍子のないことをやる人がいるもんだと思いました。

それから3年後、大学院生の時に、大学の助教授がオーストラリアに体外受精を見に行くというので、私も一緒に連れて行っていただいて。2週間のワークショップで採卵や胚移植などを見る経験をしました。その時、ご一緒した皆さんの中には、今の体外受精をやっているパイオニアの先生がたくさん来られていて、いろんな人と知り合いになりました。

帰ってから、父の総合病院の倉庫を改造してラボを作り、若い臨床検査技師3人ぐらいで、体外受精の技術の研究を始めました。色々ともみんなで工夫をして実施したんですが、

二人目の患者さんが妊娠したんです。
何か不思議な感じがしましたね。

私の不妊治療のベースには、いつも胎教がありました。
当然、治療には最先端医療の技術は重要です。
しかし、一般的な病気のように悪いところを切ったり、取りかえたりして、
その一部を治したからといって、妊娠できる体にはならないのです。

生命とは何か？どうして生まれるのか？から始まり、
ありとあらゆる生殖に関与することを学び、
その上で妊娠できるように足りないことを補っていく治療こそ、
不妊治療の極意なのです。

だから私は、身体と心を別々に考えて治療はしません。
私は良いと思うことは何でもやってきました。

心理、栄養、遺伝カウンセラーを置いたり、
心と脳をリラックスする自律訓練法を考えて実践したり、
漢方薬、サプリ、鍼治療、アロマテラピー、レーザー治療など
東洋医学を不妊治療に活かして来ました。

もちろん西洋医療の最先端技術も、研究室を設けて研究し続けてきました。

ガンや糖尿病などを「ミトコンドリア病」として治療しているのと同じように、
不妊も「ミトコンドリア病」の1つとして捉え、
ミトコンドリアを活性化させるための研究を、
私は10年前から研究し、成果上げています。

「ミトコンウォーク」という独自のウォーキングも開発して、
患者さんと妊娠力をアップするための卵子若返りに活用しています。

また、30年前からは、自分の身体の健康のために気功を学び、
陰陽のバランスが整っていることが、
心身共に健康になることを身をもって体験しました。
この気功の理論を不妊治療に活かす「受胎気功」を考案し、
今でも直接指導しています。

このように、東洋医学と最先端医療技術を組み合わせた「統合医療」が、
私の不妊治療法で、これは卵子のミトコンドリアを活性化する治療法です。

地球環境の悪化、ストレス、環境汚染、電磁波、食生活の乱れ、生活習慣病などなど、不妊症の発生要因は様々で現在、日本だけでなく世界中で不妊に悩んでいる女性が急増しています。

赤ちゃんが生まれないということは、国の繁栄につながる深刻な問題で、私の所には、世界中から治療の要請が届きます。

世界中の不妊で悩む女性の皆さんが赤ちゃんを授かるように、一人一人にあった治療法をマンツーマンで指導する統合医療コーディネーターをつけたり、世界最先端技術を使って努力しています。

今まであきらめていた女性の皆さんにも赤ちゃんを抱いてほしいと考えそのために、全力で不妊治療を通して少しでも世界に貢献していきたいと思っています。

Q7. 今までに大変だったと思うことは何ですか？

父が亡くなってから、河内総合病院が多額の負債を抱えて他の法人に売却することになりました。
最先端医療を導入し過ぎて、経営が立ちいけなくなったわけです。

そして、私に全部借金が来たんですね。債権回収機構に追求されまして、自分の財産すべて手放しました。その時50歳前でしたが。

IVF大阪クリニックを設立していましたから、収益はほとんど借金にまわしていました。
しかし、親が設立した病院で、私も参画していたのでしょがないかと思いました。

その時は自己破産まで考えていたんですが、その内、病院を買ってくれる話がうまくいって。借金がなくなったのです。これも不思議な話ですね。

この経験は今の経営にとっても役に立ってまして、とてもいい勉強になりました。

Q8. 森本先生のスターリィマンは誰ですか？

パッと一番に思い浮かんだのは、
恩師の榎木勇教授そして日本受精着床学会を創設された
慶応大学医学部の飯塚理八教授ですね。
実は、先生に大学教授でもない開業医の私が、
日本受精着床学会という大きな学会を任していただいたのです。

また、紀子様の主治医をされていた、東大の教授の坂元正一先生ですね。
我々、産婦人科医では、神様みたいな方で、
私は坂元教授がお亡くなりになる2～3年前にご縁をいただきました。

その時に、ご案内をさせていただいたら、先生からご返事をいただいて、
3日間の学会にご出席をいただいて、本当に有り難かったですね。

私の人生の節目、節目に、スターリィマンが現れますね。
これも偶然？本当に恵まれていますね。

「今を生きるスターリィマンの物語」
☆第13話の第2章は、10月29日(水)配信予定です！

森本義晴氏の家族の原風景はいかがでしたでしょうか？

森本先生が、お父様、お母様から受け継いだ医師としての志は、
現在、お二人の息子さんへと受け継がれて、
さらに世界中の女性の皆様に幸せをお届けするための
かけがえのない未来への贈りものとなっています。

ところで、森本先生とカラオケをご一緒させていただいた時がありました。
その時、とってもリズム感のあるソフトな張りのある声にびっくり！！
でもその訳がわかりました。
3000曲のレパートをお持ちのお父様がいらしたんですね。納得です。

さて、次回の第3話 森本義晴氏のスターリィマンに宛てた
感謝の風船レターの配信は、11月9日です。

皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後 記☆

昨日、今日と気仙沼で紙芝居の活動を行い、
先程、福島に到着しました。

気仙沼には、2011年の8月からずっと
継続的に伺いするご縁をいただき、
たくさん子ども達や地域の方々の笑顔に
私たちの方が勇気づけられる2日間でした。

さて、もうすぐ11月5日を迎えます。
この日は、スターリィマンと娘のお誕生日であり、
「一般社団法人スターリィマンからの贈りもの」の設立2周年です。

ここまで活動を続けてこられたのは、
私たちの活動にご賛同いただき、ご支援くださった
スターリィマン会員さんを始め、多くの方々に
お力添えいただいたおかげです。

皆様、東北や日本中の子ども達に、
夢を叶える9つの風船をご一緒にお贈りいただきまして、
本当にありがとうございます！

3年目を迎えるにあたり、1000名のスターリィマン会員さんを集い、
よりたくさんの方々と共に、一つでも多くの贈りものを
お届けすることが出来たらと願っています。
引き続き、温かな応援を宜しくお願い申し上げます！

それから、来年のスターリィマンのカレンダーの先行予約は、
明後日の10月31日（金）までとなります。
是非、お申込みいただけると嬉しいです。
<https://dream.stores.jp/#/items/5430219386b1880a7b0006ba>

また、カレンダーの販売のご支援もいただけましたら、
本当に有り難く思います。
すでにお申込みいただいた皆様には、
11月1日以降、順次発送させていただきますので、
今しばらくお待ちくださいね。

明日の午前中は、福島県の本宮市の保育所さん2か所で
紙芝居ライブをさせていただいた後、
いつも活動でお世話になっている「福島キワニスクラブ」さんと
カレンダーの売上をご寄付先となっている
「たまきはる福島基金」さんを訪問させていただく予定です。

それでは、皆様も体調を崩さぬよう、お身体を大切に
素敵な秋の日々をお過ごしくださいませ☆

はせがわ芳見

発信元：はせがわ芳見
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2
TEL/FAX：048-671-7708
HP： <http://www.dream-hasegawa.com>
blog： <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

★*.....*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2014.11.09 vol.40

★*.....*★

☆ご あ い さ つ☆

11月に入り、第2週目の日曜日です。

皆様、いかがお過ごしでしょうか？

北からの紅葉のお便りが、

我が家の小さな庭にも届きました。

皆様のところではいかがでしょうか？

木々の様子が一日一日と

季節の変化を教えてくださいね。

人生を四季に例えたら

今、自分はどの季節をきているのかなあ！

なんて色づいた葉たちから今を想っています。

それでは、第13話「今を生きるスターリマンの物語」

最終章 森本義晴氏のスターリマンに宛てた

感謝の風船レターをお送り致します。

最後までお読みいただけましたら嬉しいです。

☆第13話「今を生きるスターリマンの物語」

世界中の不妊で悩む女性たちに希望と幸せを届けている

IVFなんばクリニック理事長/IVF JAPAN CHO Dr.森本義晴氏

第3章 ～森本義晴氏のスターリマンに宛てた感謝の風船レター～

今までの人生で
お世話になった方々への感謝の気持ちを書きます。

まずは、恩師の故榎木勇先生。

私は、なぜか幼小の頃より
産婦人科医になることが決まっていて、
関西医大入学と同時に
榎木門下に入門することになりました。

先生は三高、京大のエリートでしたが、
あるときは厳しく、あるときは優しく指導して頂きました。

お教え頂いた診療の基本は今でも実行しており、
先生直伝の電子顕微鏡研究は
今も私の柱になっております。

次は、鈴木秋悦先生。
先生は、全国に弟子が大勢いる生殖医学の神様のような方です。

先生には、人といかに交わるかを教わりました。
先生から頂いた多くの海外、国内の人脈は私の宝です。

とつても、温かい方で、
自分が高齢で調子が悪い時でも
人を気遣って下さいます。

そして、故飯塚理八先生と故坂本正一先生。
このお二人の産婦人科界の巨人とは
お二方の晩年にお世話になりました。

飯塚先生には、
2005年に開業医としては初めての
第23回日本受精着床学会の
会長に指名して頂きました。

学会前に
「会長先生にはごあいさつに行くことになっている」
と仰って、私の病院に来られたのには驚き恐縮しました。

とても丁寧な方で、
先生の真摯な姿勢には多くを学ばせて頂きました。

一方、坂本先生には
その学会の案内を差し上げたところ、
ご返事を頂いたのには驚きました。

そして、大阪まで来て頂き、
会期中ずっと参加して頂きました。

最後は竹村秀雄先生。
先生には、東京オペグループでお世話になりました。

私とは専門の異なる周産期の東大出の大家ですが、
温かく気さくに接して頂きます。

大阪の若い産婦人科医のお父さんのような存在です。
マタニティカーニバルというイベントでの委員会では
いつもご指導を頂いております。

私がこの人生でお世話になった方々は、
この他に大勢いらっしゃいます。

全ての方について、書くことは出来ませんが、
人生という道の辻々で私を助け、
導いて下さったことに心から感謝しております。

森本 義晴

☆「今を生きるスターリイマンの物語」☆
第14話の第1章は、11月19日(火)配信予定です！

森本義晴氏のスターリイマンに宛てた
感謝の風船レターは、いかがでしたでしょうか？

森本先生の慈愛に満ちたスターリイマンの姿には、
森本先生を支え、育ててくださったスターリイマンたちとの
たくさんのお会いがあったんですね。

お一人お一人からの教えをしっかりと受け止め、
忠実に守ってこられたからこそ、
世界中の女性の皆様を救う風船をお届けできるのだと思いました。

さて、先日、森本先生から新しく開院される
HORACグランフロント大阪クリニックの
竣工披露パーティーのご案内が届きました。

今、大阪で最も注目されているグランフロント大阪の
Bタワーの15階に、HORACが完成します。

<http://www.ivfhorac.com/>

12月6日に実施される内覧会には、娘もご招待いただき、
母娘でお伺いさせていただけることになり、とても楽しみです。
素敵な機会をいただきまして、森本先生に感謝いっぱいです。

それから、第1回目のメールマガジンの際に
ご案内させていただいた森本先生の著書
『Dr.森本の「卵子力」をアップさせるライフスタイルBOOK』の
プレゼントですが、5名様からご応募いただきました！

お申し込みくださった皆様、どうもありがとうございました。
お届けまで今しばらくお待ちくださいませ。

そして、本日はHORAC開院記念として、
追加で3名様分のプレゼントをご用意いたしました。

森本先生の著書のプレゼントをご希望の方は、
1.お名前 2.お届け先ご住所 3.お電話番号 をご明記の上、
yoshimi@dream-hasegawa.com までお送りください。
(このメルマガに直接ご返信いただければ構いません)

前回ご応募し忘れたという方は、是非お申し込みいただくと幸いです。
尚、応募締め切りは、11月22日(土)までです。
皆様のご応募をお待ちしております。

☆後 記☆

来週17日は、福島県三春町にお伺いする予定です。

12月19日からメールマガジンでご紹介予定の
「たまきはる福島基金」の理事長の玄侑宗久氏に
インタビューをさせていただくためです。

「たまきはる福島基金」は、玄侑氏が命名したそうですが、
「たまきはる」とは、「いのち」という意味だそうです。

2012年のカレンダーから「たまきはる福島基金」さんへ
カレンダーの売上の一部をご寄付させていただいているのですが、
毎年、ご支援くださっている皆様のご厚意に感謝いっぱいです。

芥川賞受賞作家の玄侑氏にインタビューをして、
原稿をまとめると思うと、今からドキドキしています。

震災から今に至る福島のこと、これからのことを
お聞き出来ましたらと、願っております。

おかげ様で、連日のようにカレンダーのお申し込みをいただき、
本当にどうもありがとうございます。

早速、お届けさせていただいた方々から、
「かわいい」「素敵」との喜びの声が届いてとっても嬉しいです。

引き続き、ご支援のほどどうぞ宜しくお願い申し上げます。

☆スターリィマンカレンダー2015☆

<http://www.dream-hasegawa.com/about/calender2015.pdf>

<https://dream.stores.jp/#/>

それでは皆様、体調に気をつけて笑顔の毎日をお過ごしくださいね。

はせがわ芳見

発信元：はせがわ芳見
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2
TEL/FAX：048-671-7708
HP： <http://www.dream-hasegawa.com>
blog： <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>
